



街の魅力に気づく本【街本】のかわら版

TAKE
FREE

JOURNAL

マチボン

2023 OCTOBER ISSUE
マチボンジャーナル

VOL. 003

【特集】

民藝に触れる旅

愛媛ゆるりすむ・幹なライフスタイルペーパーだよ。



SPC Publishing

こんにちは、マチボンジャーナルです。フリーペーパー・SNS・YouTubeやらなんやらで、えひめ暮らしを愉しむための情報をお届けしています。さて、話は変わって民藝、Folk Art、2000年前後にイタリアやフランスのアートアイテムとして再発見されてから、静かなトレンドが続いている印象ですが、瓶や焼物を中心に、実は民藝の影響を受けた場所やモノが愛媛にも残っています。今回は趣味と実益を兼ねて、メローな旅をしてきましたよー。今号もおもしろコンテンツ満載で、手に取っていただけると幸いですー!。



FolkArtMello



昭和42年独立。国内外の古陶器
器や織物など約2,000点所蔵。全
国各地の販賣店も所蔵。「古器さ
んぽ」といったイベントやワークシ
ョップも定期的に開催している。
[詳しくHP、Instagramで。](#)



全教アイビースクエア、本巣市庁舎などを手掛けた
池辺謙太郎(1909-1991)が1951年に設計した。波
り真下でつながれた二つの建物が併む。瓦屋面断
面の外材合に介にも思えを争いだとも言われる。荷
台の接吻壁に木挽瓦の吹きモダンかつ柔らかい空
気感の教会と、吹き抜けの玄関や椅子や椅子、屋根
ごとに波型を付いた2階など、時間による光の移動、
角度によって複雑な表情を持つ吹き屋と、画面から
見ると腰口算と円柱、高窓が連続するモダニズムの
色濃い幼稚園。それそれ個性の違う三つの建築物は、年を追うごとに蓄積が見出されている。



西奈宗教幼稚園



陶器ヶ丘から徒歩で約5分、陶板の道へとつながる通子園の大まな和風建築には、入り口階段として愈々踏められた明治時代の唐瓦や、ウメノ青銅陶器で実際に使用されていた今では、希少な登り窓で使う古い陶板などが販売。落ち葉がいたる空間でゆっくりと商品を選ぶことができる。



愛媛で民藝に触れる旅

2000年前後から続く民藝、クラフトブーム。

昨年、民藝の可能性を見つめなおした東京国立近代美術館の「民藝の100年」をはじめ、大阪中之島美術館での民藝展、「柚木沙弥郎と仲間たち」展など、様々な展覧会が催され静かな盛り上がりを見せている。

おっ、振り返ってみると愛媛にも様々な民藝の面影が残っているじゃないかー。文化の秋、少しメローな気分で民藝に触れる旅へ。ポン・ヴォヤージュ!

ディレクション＆テキスト：板下尚介／デザイン：土屋由己美
撮影：丹生谷千鶴／モデル：ふみか



愛媛を中心に、日本各地で作られる無条件で丁寧な手仕事をの品々を取り扱う。洋服のやちむん屋、大分の小鹿田焼屋、高取の手仕事をいったいわらわら、お出での美しい写真によるInstagramの投稿も人気。



「民藝」とは何か

「民藝」と聞くと、60年代から70年代にかけて流行した民芸の乡土産品を思い浮かべていませんか？ 本来の民藝とは、プロダクトデザインで人気の柳宗理の父、柳宗悦や瀬田庄司によって提唱された造形であり、職人の手から生まれた日常の生活道具を「民藝（民衆的工艺）」と名付け、そこに美を見出そうとする生活文化運動です。ローカル感を演出した商業主義的なものとは真逆の、ラジカルな運動だったのではないでしょうか。

四国で唯一の民藝館を訪ねて

西条市の中心地、旧尾瀬駅の坂に囲まれた一帯に連なる土蔵造りの窓や屋根のアールが特徴的な不思議な建物が愛媛民藝館。この建物は建築家、浦辺鐵太郎氏が手掛けたモダニズム建築で、当時の日本民藝協会会長・倉敷レイヨン（現：クラレ）社長大原統一郎氏の呼びかけで設立された四国で唯一の民藝館だ。ちなみに同じエリアにある西条栄光教会、牧師館、幼稚園園舎も同じく浦辺鐵太郎氏の設計で、2021年に登録有形文化財に登録されている。エントランスを隔てて右側の民藝館入り口を入ると、100歳を超えて今なお現役染色家である柚木沙弥郎氏の手による『民藝館』の題字に迎えられる。吹き抜けには開業当時のスタッフたちによる手作りの民藝地図が掲げられている。アールを多用し、コンクリートにざらつきを加えたあえてシャープではない、質感や重厚感にこだわった空間。窓の格子のちょっとした造形などに建築家のこだわりが感じられる。スタッフの矢野さんは、「各地域で作られた暮らしの道具に目を向け、美は暮らしのなかにあると提唱したのが民藝です。その背景には、急速な近代化により失われていく各地の伝統文化や手仕事を察する想いがありました。古くても価値のあるものや地域の特性を残すこと、民藝の普遍的なデザイン、環境への配慮など、今の若い方がモノづくりの背景にも目を向け、本来の暮らし方が復権していた民藝が受け入れられているのは嬉しいですね。足に足がついている印象です」と語る。

民藝の青い影

砥部の陶器ヶ丘に竹む生メノ青銅陶器は明治25年開業の窯元。平成元年には、当時観光客であふれる砥部で砥部焼に直接触れて購入することができる店舗をとの想いから販売店をスタートさせた。当時からオリジナル商品だけでなく、若手職人などの器もセレクトしていたという。喜大工が建てた和風建築の玄関で、陶板の道と砥部焼の器を一豊しながらオリジナルの器と若手を中心とした陶芸家集団、もぐらの窓の作品などを手に取ることができる。今では絶対に高額となり、すっかり年季の入った建物は砥部焼の歴史を表している。「民藝運動で柳さんたちに砥部焼は見出されたんよ」とおかみさんは笑いながら言った。

暮らしと民藝

ローブウェイ街を散策しながらローブウェイの乗り口付近まで上がり、味のある木の看板に目が留まる。工藝ギャラリーROSA。花園町で営業していた時期を入れると、今年で14年目。漆、硝子、木工品や布などが酒酒で落ち着いた空間に並ぶ。店主のまさこさんは、愛媛民藝館で出会ったもやい工藝の故久野氏の選択眼に多大な影響を受け、愛媛を中心とした手仕事を美しさを、肩ひじ張ることなく軽やかに伝えてきた。「民藝をあえて意識してわけではないし、慣れ親しんでいたわけでもないのですが、今の自分の中のものさしで考えてみると、自然と民藝の影響を受けています。店を始めたころは少しマニアック、裏道のお店だったのかもしれません。今の方が置いてある器など、素直に受け入れられている。普通に暮らしを楽しんでる方たちに求めもらっている気がしています。時が経つにつれて地元に目がいくようになり、お客様も自然と地元の手仕事を求めてくれるようになってきました」。柳宗悦たちの民藝運動、そして久野さんから譲られた種がROSAからお客様へと伝わり、根付いていく。うーん、民藝って素敵じゃないか。

愛媛民藝館

西条市坂屋町238-8 時：11:00～17:00（入館受付16:30まで）
休：月曜、祝日の翌日、年末年始

ウメノ青銅陶器

宇摩町岩舟町大曾1035 時：9:30～17:00 休：無休

工藝ギャラリーROSA

松山市大曾根3-8-11 時：11:00～17:00 休：火曜



自然と整う、

霧の高原・

Kirinomori
Kirinokogen



霧の木々

茶と自然の清々しい安らぎ

香茶フェ ゆるり

最高に柔らかく煮上げられた香り豊かな新宮茶を、古民家のような空間でゆったりと味わえるカフェ。新茶はもちろん、お茶を使ったスイーツやドリンクなど魅惑のラインナップ。



#霧の森

レストラン

全面ガラス張りで実際に森の中にいるかのように見えるレストラン。新宮茶の香りを取り入れた料理のほか、茶そばやオードーを受けてから作るおぼろ豆腐も店舗以来の人気メニュー。



新宮茶を贅沢に使った豪華な「霧の森そば」

#新宮茶

体験コーナー

日本茶インストラクターによる解説付きで、新宮茶の飲み比べを体験できる。ほうじ茶炒り体験や抹茶点て体験も人気。特に10月下旬から11月上旬の紅葉シーズンには、立札に美しい紅葉と霧の森が見もの。



#LUONTE 霧の高原 Glamping

2023年8月オープンのグランピング施設。新宮茶を使ったフィンランド式テュウナやほりじ茶ビールなど、新宮ならではの楽しみも。自然を全身で感じながら贊美な時間を過ごせる。



#霧の高原

オートキャンプ場

霧の高原コテージ

ちょっと気軽に乗みたいならオートキャンプ場やコテージへ。キャンプ場は区画ごとに駐車場・洗濯台・かまど・電源が備わるほか用品レンタルもあり初心者やファミリーにも。



霧の森

佐賀中央市新宮町島立4491-1 電/0996-72-3111 休/9月~3月は月曜定休 晴/10:00~17:00

霧の高原

佐賀中央市新宮町上山4500 電/0996-72-3113

まいにち、 まいにち。

想いをのせて、文化をつなぐ

四国中央市で紙漉きと共に発展して来た伝統工芸・水引細工に、新しい風を吹き込もうと挑戦を続ける「大西水引」。コロナ禍で試みた、水引の“新しい文化を創る”という挑戦は、「伝統工芸にトレンドを落とし込む」というひらめきから始まりました。「どの業界にも常にあるトレンドが、水引業界にはなかった」と語る大西社長は、女性誌からSNSまで幅広くアンテナを張り、ハレの日に使われるイメージが強い水引を、普段使いできるアクセサリー小物に。今までの水引にはない繊細な色合いと用途で、伝統工芸を日常に溶け込ませる、新たなカタチを生み出しました。社長の一冊の確信は、新しい文化を創り出すZ世代が水引を取り入れてくれること。最近では水引が成人式や卒業式の装飾品として好まれ始めています。「自然発生で生まれる文化がある。そこに敏感にアンテナを張って商品化していかたい」と社長は語ります。



1.水引ヘアゴム/1,100円
2.水引ヘアピン/1,100円
3.水引ヘアーム/2,700円



水引し巻き ¥3,300円

同時に、日本のハレの日に欠かせない祝儀やしめ縄など、“今ある文化のプラッシュアップ”にも取り組んでいます。「伝統は守らなくちゃいけない。今まで作っていたものと、『結ぶ』こと自体は変えず、トレンドに合わせてデザインや色合いを変えることで、今ある伝統・文化を守っていくために“水引が活躍するステージ”を変えている」。伝統工芸は、服装も家も考え方も違う30年前の感覚ではなく、今の空間と風情に合うように、発想の転換で、身近なものへと変化しています。取り入れ方は、あなたの次第。気づかぬうちにあなたしさを引き出す水引が、なくてはならない日本の美しい文化として定着し続けることを願って…。



上_水引幸運(2個)/600円
左_花束(2束セット)/2,200円

小さな金封/100円



株式会社大西水引
四国中央市山内町下分 2570-56
TEL: 0806-58-6552
東京営業所/滋賀直営 菊池屋





ポンポコボーン

・この味イッポン90年・



いつも身边にあった 一口サイズのお饅頭

「西条市民なら誰もがきっと知っている」といっても過言ではない、昔から親しまれ、愛されてきた小さな一口サイズのお饅頭。「たぬきまんじゅう」という愛すべき名のこのお饅頭は、2022年に販売開始から90年を迎えました。当時、和菓子店を営んでいた店主が「地元を代表するお菓子を作りたい」と発起し、近くの大気味神社に住んでいたとされる神道力のある喜左衛門狸にちなんで生まれました。「たぬき」には語呂合わせで「牠を抜く」という意味も込められているそうです。懐念ながら、たぬきまんじゅうは2018年に一度その歴史に幕を下ろしました。しかし「このまま終わらせてはいけない」という地元の熱い声を受け、同年冬に奇跡の復活を遂げたのです。

変わらない味、 これからも



たぬきまんじゅうの これまでとこれからと

たぬきまんじゅうはじっくりと練り上げられた粒あんを、白あんに卵黄を加えた口溶けの良い桃山生地で包んだ焼き生菓子。素朴でありながら、どこか上品な味わいも感じます。たぬきまんじゅうは、材料や作り方がシンプル。だからこそ、少しの違いで仕上がりが大きく左右されるため、職人が心を込めて一つひとつ丁寧に仕上げています。昔からあるプレーンは変わらずに、ずっと守り継けていく味。西条市産の苺を使ったりいちご味、久万高原町産の高級抹茶を練り込んだ抹茶味も、新たに仲間入り。皆様のもとへ届くよう販売店も拡大中です。「たぬき」のようにこれからも時代とともに変化と挑戦を続けていきます!

時代に合わせて

Since 1932 → 2024



変えるもの、変えないもの

たぬきまんじゅうを地元の人以外にお届けしたい、変わらないそのおいしさを知っていただきたい。そんな想いでパッケージを一新。愛されるたぬきのキャラクターで統一しました。包み紙は笑っていたりとぼけていたり、たぬきの表情は全部で6種類。ぜひ全ての表情を探してみてください。



時代に合わせて
90年
以上



たぬきまんじゅう

TANUKI MANJU

愛媛県西条市西田甲450-1
TEL 0897-66-8090

HP 販売サイト



2021.11
お引き渡し

イタリアンブルーの大人かわいい暮らし「小さくて、かわいい家」



より愛おしく
住むほどに
imported housing

トータルハウジングトップが手がける家は無垢材や漆喰などの自然素材をふんだんに使い、家族に合わせたオリジナルデザインを施しています。そこから生まれる心地よい空気感、住み心地は、時を重ねるごとにいっそう深まっていきます。そんな「経年美化」を味わいながら住み手の豊かな人生を描いていただくことが私たちの最大の願いなのです。



トータルハウジングトップ

松山市今在家2-3-4 tel.089-957-2777
営業時間／8:30～17:30 定休日／水曜日
愛媛県知事許可 (第-2号) 10713号 愛媛県知事許可 (S) 第4614号

当社施工例を
掲載しています。
ぜひご覧ください。

フォローや
Instagram



輸入住宅! フレンチスタイルの「店舗付き住宅」



南欧の風が吹き抜ける「大人可愛い家」



大人のインテリア「SHABBY SWEET STYLEの家」



見学会予告

(松山市・白水台)

見学のご予約は
こちら▼

ヨーロッパの片田舎に建つ小さな家

完成見学会 開催(2023.11月～2024.1月末)

展示場として3ヶ月間、公開します!



SPOT NOW! #03

今行きたいのは
これな場所

今回は、暮らしに取り入れたいクラフト作家を
ワンループオーナーがピックアップしたよ。

木工藝品グループ 後藤琢磨さん
久万高原町にて、スタイルシックでこだわり抜かれた木製品の製作や、漆喰・真漆を使用したスパイスや手作りなどを手掛けています。

クラフト編

ワトサン製陶



佐賀市豊前町乙14-2
電/095-924-2999
休/不定休
@wotsanceramics

アメリカのモッドセンチュリーや昭和のレトロトップと言われる、1950~1970年代の工業製品を感じさせるシンプルでモダンな雰囲気を感じられるデザインが特徴的。ワトサン製陶の矢野修一氏が手掛けるセレクトショップ「YON MART」では、個性豊かな手作り作家さんの器も販売している。

股工房



佐賀市豊前町乙1-3-2
電/095-926-5520
定/12:00~19:00 休/日・月曜
@koshogou

ガラスを熱かし、丸めたものに好きな柄をつける「トンボ玉」の製作体験ができるガラス工房。実成したトンボ玉は、アクセサリー加工も手掛ける店主の手によって、アクセサリーやストラップにして持ち帰ることができる。世界に一つだけのトンボ玉を手に懸け、生産に取り組みよう。

革工房ワンループ



上原町久万高原町入野155-1
電/095-21-1523 休/不定休
@onelopleather

久万高原町の自然豊かな田園風景が一望できる場所に併む革工房。すべて手作りで製作しており、新品のデザインには深緑の木のぬくもりと革戸内のしまなみ、やまなみといった愛媛県の景観地をモチーフとして作られている。革製品からではあるが、季節変化による様々な表情を楽しめるのも魅力的。

マチボン編集部が「マジで行きたい」 NEWイベント

民藝さんぽ

江戸時代の茶道が残る遺産で、国際品アートコレクション・古道具などを販売する店や、本文化美術館、それらの企画展示、地元人気飲食店の手作りの味が楽しめる。また、地元高松生も一緒にイベントを盛り上げたり、行き先満足すること間違いなし。

開催地:西日本開催エリア
開催日:2023年11月3日(金・祝) 10:00~15:00
会場:芸能開催人愛媛県高松市高松市役所2階
料:芸能開催人愛媛県高松市役所 097-55-2110

結び musubi

結婚式の人と人を結ぶ繋り物、ウェディングという一つの結婚式をテーマに、前撮り・教会挙式・オリジナルギフトまでご提案。撮影・挙式プランの案内会社、ドレス・靴花・施設花のギフト展示。また各店舗の販売も。入場料は無料なので皆さんぜひ。

開催地:全国
開催日:2023年11月11日 12:00~16:00
会場:Uly photo(高崎市東石井7-7-21)
料:Uly Photo 055-935-2220
問い合わせ:ulyphoto.com



感動で紹介しきれなかった
情報をアップ

マチボン
QRコード
詳細
データベース
ハウス

感動がゆる〜〜く
更新中!!

感動
designers
house
QRコード

自分らしいお家を
考えはじめたら

YouTube
QRコード

マチボン的
あの人에게あげたいギフト

ONLINE
SHOP
QRコード

COLUMN

Room Snap #03

今治市にある、心と体に嬉しい日々の暮らしとおやつの作り方を伝える「野の草の台所」さんを訪ねました。そこには、心や身体が喜ぶ、本当に豊かな暮らしがありました。



野の草
いのちの台所

佐賀市立野の草
株式会社
TEL 095-921-1172
noborusagasho@gmail.com



マチボン編集スタッフ 滝谷
マチボン編集部も毎日、面白いものと美味しいものに満足。心地が良さじに頬ほころびます。

マチボン不動産 #03

福島での暮らしにはロマンがある♪



価格
600
万円

場所 今治市大三島町口根(今ちゃん)
参考 457.09m²(宅地)+185.6m²(建物)+350m²(裏野・山林)
面積 2495.19m²(宅44.9坪)

大自然の中で人生をもっと豊かにできる
健脚地に広がる絶景地の古民家

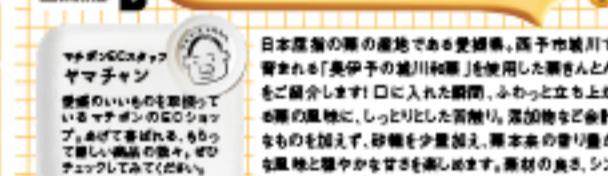
海潮が走ってくる斜面に広がる複数棟。その斜面を眺めたところにこの家があります。黒特有のいい場所です。実際に来てみれば、誰もがそう思えるでしょう。広い敷地で、そのまま農耕用庭地もあるため、農業をされる方はもちろんですが、何かの機会に使いたいという方にもおすすめの物件です。

問い合わせ しまなみのふどうさん info@northernmostlab.com

Good Foods #03



奥伊予の城川和菓「栗きんとん」
【城川ファクトリー】



マチボンのスタッフ
ヤマチャ
愛媛のいいものを探して
いるマチボンのショッピング。
お手に取れる、ちらりと立ち上がり
る栗の風味に、しっとりとした質感で、
蜜加糖などを含む、砂糖を少しあげ、栗本来の香りを
引き出します。栗を練めた「栗きんとん」です。

local design products #03



田中達工房



くわみみ丸



「周み手すき和紙」を素材とした器
「わしき」。底等のザラつきが味わ
いとなり、芯に施した力で強、木
性も伸び分なし。とても軽く、蓋として
も割れることもないため、ハレの日以
外でも使いやすいのが特徴。

QRコード
P
QRコード
イン
スタ

あとがき

まだまだ書いてます。この時期に文
化系の取材でここまで体力勝負になると
は思ひなかつたっ。民藝が好きなので
すが、誰にも共感してもらえない…けど、
結構良いですか? 基本的にしている
愛媛ですが、まだまだ知らない魅力的な
モノが残っているんです。それではまた、次
号「ジノモノを巡る旅」でお会いしましょ!

Staff List

editor in chief 編集長

森本真理恵 横田英輔 白石幸巳 沢田京子
岡本基輔 青野彰 西谷栄花 田中幸奈 鈴木裕介

marketing staff マーケティング

森本真理恵 横田英輔 白石幸巳 沢田京子
岡本基輔 青野彰 西谷栄花 田中幸奈 鈴木裕介

designer デザイナー

土屋嘉洋 松原真衣 鈴野貴大 田中優衣

マチボンジャーナルvol.003

編集会社エス・ピー・シー

愛媛県松山市清洲町2丁目3-5

郵便番号 790-0045-1120

電話番号 090-924-7272

印刷/セキセキ会社

発行期日 2023年9月25日発売のものとなります。
本誌の写真の写真、イラスト、記事の
権利は著者名(個人)様になります。

Next Issue ▶ ジノモノを巡る旅 2023年10月31日(火)発行